



広吉 敦子の 議会報告

平成28年度予算特別委員会

3年間の緊急財政対策が終了したといいますが、真に必要な事業を精査し、区民サービスの向上に努めていくべきだと考えます。

これからの区政は福祉、都市整備、産業等総合的なまちづくりの視点で取り組むべき

まちづくりの支援を目的とする目黒区住宅・街づくりセンターは、2013年3月末日で廃止され、エコライフめぐる推進協会がまちづくり事業の一部を引き継ぎましたが、2016年3月末日で事業を終了しました。多方面の分野から講師を招き実施していたまちづくり講座は、区民に多様な価値観を気付かせ、まちづくりの目を培う機会となりました。今後、ますます区民の主体的な参加による「まちづくり」が必要となるため、事業の終了は残念です。

目黒区には「目黒区街づくり条例」という身近な小学校単位で話し合いの場を設け、主体的にかつ継続して課題解決に取り組めるしくみがありますが、ほとんどの人が知らず使いこなせていません。

3年間の緊急財政対策が終了した今、縮小したサービスの質を高めるべき

目黒区の平成28年度の予算編成は区税収入・特別交付金・国や都の補助金などで構成され、総額930億円です。区税収入は前年度比45%、18億4千万円の増額で42億8千万円余となり、一般会計の予算は過去10年間で2番目に大きい規模となっています。

今年度は待機児童対策としての私立認可保育所運営費補助、高齢者インフルエンザ予防接種無料化など9億円を含む合計20億円を積立から取り崩して対応しています。しかし、わずかに積み増すこともできず、積立金残高は31億円と減りました。その他の事業では、国の補助金で東山小学校改築や南1丁目緑地公園(仮称)整備が賄われ、今年度初めて実施する「めぐろ10キロマラソン」はほとんど一般財源が充てられません。しかし、75歳以上の高齢者を対象に無料接種するインフルエンザワクチンは、効果が疑問視されているにも関わらず、一般財源から4300万円余も充当するのは問題です。

18歳投票に伴い期日前投票を学校でも!

国から昨年末に政治や選挙の仕組みを教えるための副教材が全国の高校3年生に配られ、現在模擬議会や模擬投票についての学習が行われています。政治参加意識を向上させるために市民意識を育み、開かれた議論の場を作っていく主権者教育が主流です。これからは「シテンスンシップ教育」として子どもが選挙を主体的にとらえられる仕掛けが大切です。その実践として、学校を期日前投票の会場にすることが考えられます。

日頃通っている学校が投票会場になることで選挙を身近に感じ、またその準備段階から関わることで主体的に選挙をとらえることができると思います。また、普段のカリキュラムの中で討論を重ねる意思表示をする機会を増やすことも主権者教育の一環となります。



生活者ネットワークの市議会議員会とともに早稲田大学ニューフェース研究所のシテンスンシップ推進実践フォーラムに参加して



「米粉を食べる」ことにより、日本の農業を守っていくことにもつながるという気持ちで参加した。参加者からの感想があり、有意義な会となりました。(国産米粉を使ったお菓子教室)

赤ちゃんの予防接種にB型肝炎ワクチンが加わるが、税金を使って危険性の高いワクチンをつつ必要があるか

現在9種類のワクチンにB型肝炎ワクチンが1つ加わり、10種類のワクチンで予防接種することになります。無料で接種できることは、手軽さの反面慎重な判断を奪ってしまうことにもなりかねません。とりわけワクチンは劇薬だということをお忘れではありません。B型肝炎ワクチンには、子宮頸がんワクチンと同じアルミニウムが入ったアジュバンド(※注)を使っています。B型肝炎患者の増加は横ばいの状況下にもかかわらず、副作用も疑われるワクチンを定期接種化することは問題であり、自治体は保護者がメリット・デメリットを知った上で判断できるように慎重に取り組むことが大切です。

※アジュバンド：ワクチンが体の細部までいき渡るのを手助けし、効果を高める補助剤

もつたいない家具の再利用「シルバリアトリエ事業」が休止に

シルバリア人材センターには、転居などで使わなくなった家具を引き取り、修理・再生し、リサイクルショップで販売するリニューアルのしくみがあります。しかし、来年度目黒清掃工場が建て替えとなるため、現在シルバリアトリエの作業場となっている一角が使えなくなり、事業休止となってしまうと見えています。事業の休止は、家具をリユースする仕組みを途絶えさせることと、事業従事者のやりがいや生きがいを奪うことにもつながります。技術の継承のためにも、規模を小さくしても事業

を続けていくことが必要だと考えます。

今回の予算特別委員会を終えて

これからのまちづくりには、縦割り行政ではなく横の連携が重要です。厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の中では、支え合いの事業をボランティアでという動きが始まりました。ケアの必要が高齢者を元気に高齢者が支えるというように、高齢者だけで完結させることなく、身近な地域の中でお互いが支え合える地域づくりが大切です。今後は地域づくりに活かせるよう、課題解決のための政策提案に取り組んでいきます。



自民党憲法改正草案の正体を捉える!(大河原まさ子を再び国政・勝手連主催)左から、広吉敦子、吉田由美子(品川区議)、大河原まさ子、金子匡良(神奈川県立大学法学部准教授)、北澤潤子(大田区議)、田中さやか(品川区議)憲法とは国家権力者が権力を濫用しないように、制限をかけるものであること、「言葉」を変えるということは、その意味を変えたいから変えたのだと講師の金子匡良准教授は言われました。私たちは憲法を知らなければ、語ることも論ずることもできない、と改めて思いました。

学習会報告 電磁波と健康被害 ～スマホから子どもを守るには～

講師:上田昌文氏(NPO法人 市民化学研究室代表理事)
主催:東京・生活者ネットワーク

電磁波の健康被害

電子レンジや炊飯器などの家電製品をはじめ、パソコンや携帯電話、スマートフォンに至るまで、電気製品からは電磁波が発生します。携帯やスマートフォンは電子レンジと同様のマイクロ波を使っていますが、マイクロ波による健康被害は第二次世界大戦直後から問題となり、各国で規制しています。携帯やスマートフォンは現在日本人の9割以上が持つ電波発信源であり、利用者がきわめて多く、高頻度・長時間・長期間使用のうえ、頭に直接当てて使うため、その影響は計り知れません。

このようなリスクが!

- ◆赤ちゃん連れの方◆
スマホなどで動画を見せるなど遊ばせるのは、常に電磁波にさらされていることになり大変危険です。赤ちゃんはより影響を受け易いので注意してください。
- ◆身体の小さな子ども◆
頭蓋骨も薄く脳のサイズが小さいため、高周波吸収領域は大人の2倍以上、骨髄での吸収量は10倍となり、脳腫瘍の発症リスクが上がるのが強く疑われています。
- ◆ポケットに入れるのは?◆
パンツや上着は生殖器が近いこともあり、常に曝露されているため、男性不妊症につながる結論付けられる論文が増えています。
- ◆妊娠中の方◆
お腹の前でスマホを使うと、お腹の赤ちゃんが曝露していることとなります。

神経系統が未完成で細胞分裂が活発な成長途中の子どもの健康を考え、電磁波曝露はなるべく回避する必要があります。また、習慣化することで、行動障害や依存症などにつながる恐れもあります。米国ではタッチパネルを指で操作できても「積み木を積むことができない(3~4歳)」紙とペンを使った今までの試験のやり方についていけない子ども」という事例が出てきました。電磁波曝露に加え「依存症」も考慮し、子どもの生育環境を整えるのは大人の責任です。

放射線	電磁波の種類	放射線
電離放射線	α線	α線
	β線	β線
	γ線	γ線
非電離放射線	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波
	電磁波	電磁波

携帯電話やスマートフォン、正しく使って使いこなそう!

- ・携帯で電話をするときはイヤホンを使うなど「ハンズフリー(手に持たない)」で
- ・ハンズフリーができない場合は頭から1.5センチは離して通話
- ・メールは身体から離して打つ
- ・充電時は頭のそばに置かない
- ・「寝落ち(使用中、そのまま眠ってしまうこと)」はしない
- ・使わないときは電源を落としておく(電化製品はコンセントを抜くと節約と電磁波の曝露防止の効果あり)